

事業名称	地域が輝く文化芸術ネットワーク事業		
実行委員会	地域が輝く文化芸術ネットワーク事業実行委員会		
中核館	茅野市美術館		
	住所	〒391-0002 長野県茅野市塚原一丁目1番1号 茅野市美術館	
	TEL	0266-82-8222	FAX 0266-82-8223
	ホームページ		
構成団体	茅野市尖石縄文考古館、茅野市八ヶ岳総合博物館、茅野市神長官守矢史料館、茅野市民館、茅野市中央公民館、茅野市市民活動センター、茅野市教育委員会子ども部学校教育課、茅野市教育委員会生涯学習部生涯学習課、茅野市教育委員会生涯学習部文化財課、茅野市企画部地域創生課、茅野市産業経済部商工課、茅野市産業経済部観光課		
事業開始時点の課題分析	茅野市を含む諏訪地域の歴史は、古く縄文時代までさかのぼり、遺跡から国宝「縄文のビーナス」「仮面の女神」をはじめとする多くの遺物が発掘されている。地域の中には公立私立の多くのミュージアムが存在し、それぞれに活発な運営を行なっているが、連携に乏しく孤立した活動に陥りがちである。中核館である茅野市美術館は1980年に開館し、2005年に中心市街地のJR茅野駅東口に開館した文化複合施設・茅野市民館の中に移転した。茅野市美術館を含む茅野市民館には、使命とも言うべき5つの基本理念、①「市民一人ひとりが主人公になれる場」、②「幅広い人々の交流の場」、③「芸術から産業にいたるまでの地域文化の創造と情報の受発信」、④「茅野市の顔としての環境づくり」、⑤「中心市街地のまちづくり」がある。これらは、館を起点とした事象については多くが取り組まれているが、様々なジャンルで茅野市内外を巻き込むには十分とは言えない状況である。ミュージアムのネットワークから、地域住民との関わりや、観光・産業・市民活動などの他ジャンルとの連携などに加え、茅野市を含む諏訪地域へと広がりをもたせ、より広域的な地域で、幅広い年齢層の地域住民と共に文化資源をどのように活用していくかが課題である。		
事業目的	茅野市を含む諏訪地域には、考古、自然・人文、古文書、美術といった異なる館種のミュージアムが複数館あり、運営方法は、自治体の直営、指定管理者による運営、大学の付属館、企業運営など様々である。本事業は、これまで、単独での活動や利用の促進を行なう傾向にあった各ミュージアムが中核館を起点としながら、観光関係団体や教育施設、市民活動施設、ワーキングスペース、地域の市民グループ、美術作家、小中学校および学校教諭の研究会、大学、企業、福祉施設などと連携し、ミュージアムに加え、地域の暮らしや活動、産業の中にある文化資源（地域の宝）を、多くの地域住民が体感し、知ることのできる場を設け、茅野市を軸に諏訪地域の中での連携を広げることを試みながら、諏訪地域を新しくとらえなおすことを目的とした事業である。あわせて広域的な視点で地域の文化資源を活用・発信できる人材の育成を目指す。特に、ミュージアムが地域の文化の拠点として活性化し、ミュージアムが有する多面的な可能性を活かした事業を行なうこと、そして、地域住民がより広域的なミュージアムとの共働のもと、多様な地域の文化資源を活かしながら、地域の文化芸術を内外に発信できるような環境の熟成を目指すものである。		
事業概要	本事業は、①「まちなかミュージアム」、②「アートで地域をサポートしませんか」によって構成される。各活動の内容は、①地域の全域で、地域の文化資源（地域の宝）に光をあてて新たな文脈でつなぎ、体感とともに自発的に知る環境の熟成を目指す事業である。ミュージアムを含む茅野市内の各施設や地域の現場からトークのオンラインイベントを実施。また、地域の文化資源を学芸員が解説する動画コンテンツを作成し、オンラインで公開。②は、中核館である茅野市美術館に加え、茅野市内にある茅野市尖石縄文考古館、茅野市八ヶ岳総合博物館、茅野市神長官守矢史料館、京都芸術大学附属康耀堂美術館、笹離宮（蓼科笹類植物園）、そして諏訪地域にある公立美術館である、市立岡谷美術考古館、イルフ童画館（日本童画美術館）、諏訪市美術館、諏訪市原田泰治美術館、富士見町高原のミュージアム、八ヶ岳美術館（原村歴史民俗資料館）、さらに諏訪地域の小中学校、諏訪美術教育研究会（諏訪地域の図工美術教諭による勉強会）、諏訪地域在住の美術作家たちと連携し、アートを切り口に地域で活躍できる人材の育成に取り組む。		

<p>実施項目 ・ 実施体系</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. まちなかミュージアムの開催 <ol style="list-style-type: none"> (1) まちなかミュージアム <ol style="list-style-type: none"> ① 検討会議 ② 地域住民への広報 ③ まちなかミュージアムの実施 2. アートで地域をサポートしませんかの開催 <ol style="list-style-type: none"> (1) アートで地域をサポートしませんか <ol style="list-style-type: none"> ① 検討会議 ② 地域住民への広報 ③ アートで地域をサポートしませんかの実施
<p>実施後の 成果・効果等</p>	<p>本事業は、①「まちなかミュージアム」、②「アートで地域をサポートしませんか」によって構成される。各活動の内容は、①地域の文化資源（地域の宝）に光をあてて新たな文脈でつなぎ、体感とともに自発的に知ることのできるトークのオンラインイベントを実施。また、地域の文化資源を学芸員が解説する動画コンテンツを作成し、オンラインで公開。②中核館である茅野市美術館に加え、茅野市内にあるミュージアムや、諏訪地域にある公立美術館、さらに諏訪地域の小中学校、諏訪美術教育研究会（諏訪地域の図工美術教諭による勉強会）、諏訪地域在住の美術作家たちと連携し、アートを切り口に地域で活躍できる人材の育成の取組みである。</p> <p>①については、茅野市内ミュージアムの作品・資料を学芸員や専門家が解説する10本の「動画コンテンツ」の作成・公開、そしてアートの専門家や産業、市民活動など、現場で活躍する方々のリアルな声を届ける6本の「オンラインイベント」（イベント終了後も視聴可）を実施した。動画公開のウェブサイトを作成。QRコード付きリーフレットを作成・配布し、気軽に視聴できるようにした。地元紙においては「茅野の芸術文化ネット発信」、「市内の美術館や博物館と教育施設などが連携し、地域文化芸術をさまざまな人につなげていく」と記事で紹介された。②については、美術館編、まなぶ編、アート×コミュニケーション編を実施。美術館編では美術館の概論や諏訪地域の美術館の活動を紹介したが、受講者から「各館の取組みや現状をまとめて聞くことができ大変参考になった」という声や、参加した美術館学芸員からは「各美術館の活動の共有に加え、ネットを介した作品鑑賞は学校や福祉施設とのネットでの実施も考えられ、今後につながる試みを行なうことができた」など高評価であった。まなぶ編では小学校の学級単位で対話による作品鑑賞を試みたが、児童から「友達の意見も聞きながら、絵をみることで楽しかった」という声や、指導教諭から「学校ではあまり話さない子が話していて、とても良い機会になった」などの声が聞かれた。アート×コミュニケーション編では市内のミュージアム5館が連携し、各館の屋外スペースで作品を展示する「ギャラリー・バードハウス vol.2」を、地元作家、学芸員とともに制作作業を共有しながら行ない、地域の人々が学べる場をつくった。地域のミュージアムの連携を生み、各ミュージアムを知るきっかけをつくることができた。</p> <p>本事業の目標は、地域のミュージアムが持つ文化資源に加え、市民活動、自然資源、産業などを含む地域の文化資源（地域の宝）を体感し、知ることのできる環境をつくり、一方でそのような環境の中から、地域の文化資源を活用・発信する実践を通して必要性を伝え、そこに関わる人材を育成することである。さらに茅野市を含む諏訪地域において、広域的な活動ができる環境づくりを目指すことである。中核館のある茅野市の人口は約55,000人であり、諏訪地域の人口は約195,000人である。①については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、全てがオンラインでのコンテンツおよび実施となったが、2022年3月の時点で、茅野市の人口の5%を超える、合計2800回以上の視聴を得られた。②については合計170名が受講した。①と②については、全戸配布の『広報ちの』（約18,700部）への情報掲載、茅野市内小中学生・教職員4,850人への配布に加え、ちの観光まちづくり推進機構との連携による情報発信や、ウェブサイトでの情報発信を行なった。さらに、近隣施設への配置依頼や過去来館者への約5,000通のDM、そして茅野駅改札口に隣接する東西通路に事業の情報看板を設置することで、地域住民および観光客への情報発信を行なった。本事業によって、文化的な蓄積を有するミュージアムを軸としながら、様々な地域の文化資源を活用・発信できる人材の育成を行ない、地域住民が地域の魅力に気づき、さらに外に広げる交流の拡大とそれに伴う新たな文化交流に向けて、より広域的な地域全体の活性化への一歩を、進めることができた。</p>

【事業実績】

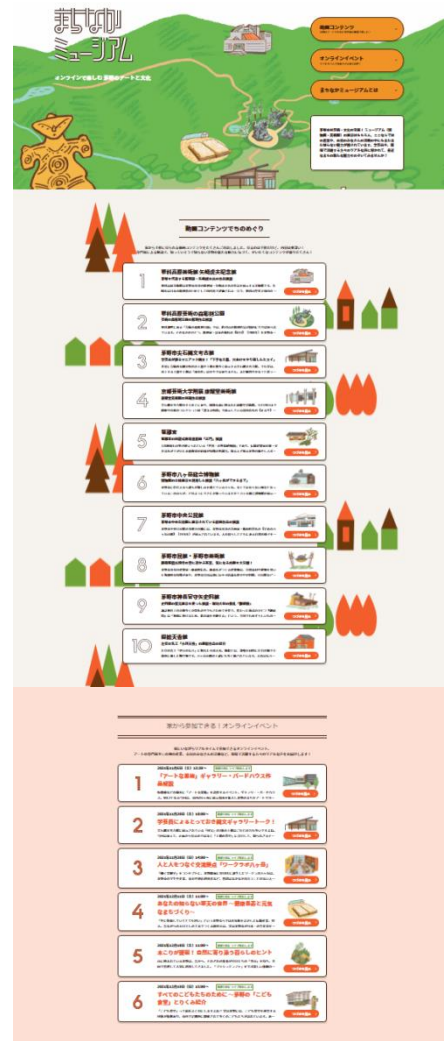
1. まちなかミュージアム

「オンラインで楽しむ茅野のアートと文化」をキャッチフレーズに、オンラインでの発信を展開。「動画コンテンツでちのめぐり」では、学芸員や専門家が茅野市内ミュージアムなどの作品・資料を解説する10本の動画を作成・公開した。「オンラインイベント」では、アートの専門家や産業、市民活動など、現場で活躍する方々のリアルな声を届ける6本のイベントを実施し、イベント終了後もアーカイブ映像を公開した。地元紙においては「茅野の芸術文化ネット発信」、「市内の美術館や博物館と教育施設などが連携し、地域文化芸術をさまざまな人につなげていく」と記事で紹介された。また、オンラインイベント「学芸員によるとおき縄文ギャラリートーク！」では国宝土偶の背中への感想や、「木こりが提案！自然に寄り添う暮らしのヒント」では季節によっての仕事の仕方など様々な質問があり、オンライン上で視聴者と出演者のやりとりが行なわれた。ミュージアムに加え、公民館や市民活動センター、コワーキングスペース、観光事業者、さらに地元の美術作家、市民グループ、事業者などとの連携が進み、ミュージアムと地域とのネットワークの構築を推進することができた。ウェブサイトについては、動画コンテンツや、オンラインイベント（アーカイブ含む）をパソコンやスマートフォンから視聴しやすいデザイン設計を心掛けた。さらにこれらのコンテンツにリ

ンクするQRコードを掲載したリーフレットを作成し、市内および近隣施設等に設置、市内小中学生・教職員（4,850人）への配布や、全戸配布の『広報ちの』（約18,700部）や地元紙への情報掲載に加え、近隣施設への配置依頼や過去来館者への約5,000通のDM、そして茅野駅改札口に隣接する東西通路に事業の情報看板を設置することで、地域住民および観光客への情報発信を行なった。

→<http://www.chinoshiminkan.jp/cmm2021/>

<http://www.chinoshiminkan.jp/chino-museum/2021/>



リーフレット



11月20日 オンラインイベント「学芸員によるとおき縄文ギャラリートーク！」



12月18日 オンラインイベント「木こりが提案！自然に寄り添う暮らしのヒント」

2. アートで地域をサポートしませんか

茅野市に加え、諏訪地域のミュージアム、地元の小学校、諏訪地域在住の美術作家、大学などと連携し、アートを切り口に地域で活躍できる人材の育成を目指した。

●美術館編 ※第1～5回までの連続講座としての受講者は14人

- 第1回 美術館の仕事 (1月23日 25人)
- 第2回 茅野市美術館サポーターの活動 (1月30日 18人)
- 第3回 美遊 com. 定例会を見学しよう (3月10日 23人)
- 第4回 これからの美術館に求められること
一対話を生み出す場として (2月12日 30人)
- 第5回 他の美術館を知ろう (3月26日 25人)

●まなぶ編

- 見るを楽しむ～対話による作品鑑賞～ (11月8日 33人)

●アート×コミュニケーション編

- アートプロジェクトを考える① (7月5日 7人)、
② (10月17日 5人)、③ (11月23日 4人)

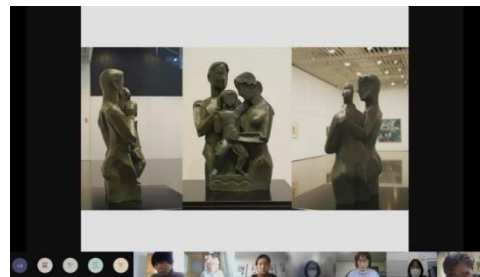
ギャラリー・バードハウス vol.2 (10月24日～11月14日)

美術館編において特徴的だったのが、2月12日の講座で諏訪地域の公立美術館（市立岡谷美術考古館、イルフ童画館、諏訪市美術館、諏訪市原田泰治美術館、茅野市美術館、富士見町高原のミュージアム、八ヶ岳美術館）が連携し、各館の収蔵作品の画像データを用いたビデオ通話（オンライン）での「対話による作品鑑賞」である。ファシリテーター（案内役）は諏訪地域の公立美術館学芸員や茅野市美術館サポーターが務めた。受講者から「多様性をもってあらゆる角度から物事を考えられる」といった対話による作品鑑賞への感想や、学芸員から「各美術館の活動の共有に加え、ネットを介した作品鑑賞は学校や福祉施設とのネットでの実施も考えられ、今後につながる試みを行なうことができた」という感想があった。まなぶ編では小学校の学級単位で対話による作品鑑賞を試みたが、児童から「友達の見聞も聞きながら、絵をみることで楽しかった」という声や、指導教諭から「学校ではあまり話さない子が話していて、とても良い機会になった」などの声が聞かれた。アート×コミュニケーション編では市内のミュージアム5館（茅野市尖石縄文考古館、茅野市八ヶ岳総合博物館、茅野市美術館、京都芸術大学附属康耀堂美術館、笹離宮）が連携し、各館の屋外スペースで作品を展示する「ギャラリー・バードハウス vol.2」（公募作家24名、作品65点）を、地元作家、学芸員とともに制作作業を共有しながら行ない、地域の人々が学べる場をつくった。受講者からは「展示設営作業を一緒に行なったことや、作家の考えを聞いたことがよかった」という感想があり、地域のミュージアムの連携を生み、また各ミュージアムを知るきっかけをつくることができた。講座全体を通して、地域のネットワークの中で、様々な立場な人々が交流し、学び合う機会を生み出すことができた。本事業ではチラシ・ポスターを作成し、「まちなかミュージアム」と同様に情報発信を行なった。茅野市の人口は約55,000人であり、その中で茅野市美術館では56人の市民サポーターが活動しているが、本事業では合計170名の受講者があった。これからのサポーター活動の充実に期待できる成果となった。

→<http://www.chinoshiminkan.jp/museum/2022/0123.html>

<http://www.chinoshiminkan.jp/museum/2021/0801.html>

<http://www.chinoshiminkan.jp/chino-museum/2021/>



2月12日 美術館編

ビデオ通話を使用した鑑賞の様子



11月18日 まなぶ編

小学2年生の鑑賞の様子



10月17日 アート×コミュニケーション編

展示作業を学ぶ様子